

1・2月の暦、行事や習慣あれこれ

一、二月份日历、民间传统节日・习俗介绍

■国民の祝日：

《元旦》1月1日（火）：「年のはじめを祝う日」。
日本人にとっては、一年でもっとも厳肅な気持ちで迎える特別な祝日と考えられています。お祝いの仕方は、それぞれの地方や家庭、個人によって違いますが、年賀状を読む、雑煮やお節料理を食べる、初詣に行くなどして過ごすのが一般的です。
《成人の日》1月の第2曜日・今年は1月14日（月）：「大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、はげます日」。

たいていの市町村では、新成人（*新しく20歳になった人）を招いて成人式が行われます。現在は、同じ学年の人（*前年の4月2日からその年の4月1日の間に成人する人）が招かれます。着物姿で出席する女性が多いので、雨や雪が降ることが心配されます。
《建国記念の日》2月11日（月）：「建国をしのび、国を愛する心を養う日」。

■伝統的な行事や習慣あれこれ

◆正月元日から三日までの3日間を「三が日」と言い、役所やたいていの会社などは休みとなりますが、最近、デパートやスーパーなどのお店は営業しているところが多いようです。

◆正月の松飾りがある間のことを「松之内」と呼びます。昔は15日までとされていましたが、近年は7日には松飾りを取りはずし、正月気分も消えて日常生活に戻る傾向にあるため、一般に7日までと考えられています。

◆7日には、「七草がゆ」を食べる風習もあります。濃いめの味のお節料理やお正月のご馳走などが続いて胃腸が疲れてきた頃、春の七草（*日本のハーブのようなもの）を、あっさり味のおかゆで

食べることは理にかなっていると考えられています。

◆11日は「鏡開き」の日とされ、正月に神仏に供えた鏡もちを下げ、一年の無病息災や一家円満などを祈りながら、汁粉や雑煮にして食べます。

◆新年恒例行事の一つに自治体消防による「出初め式」もあります。消防士や鷹の人たちが出そろって消防演習やはしご乗りが披露されます。

◆「節分」とは、本来は、1年に4回訪れる大きな季節の変わり目を指す言葉でしたが、今では、立春の前日（2月3日ごろ）だけを指す言葉になっています。「鬼は外、福は内！」と大声で唱えながら、煎った大豆をまいて悪鬼を追い払う豆まきの風習があります。

■国民节日：

《元旦》1月1日（星期二）：
“是新年的第一个节日”。

对日本人来说，迎接新年是一年中最重要的节日。过年的方法各个地方和家庭各有不同，因人而异。读看收到的贺年卡、吃煮年糕和年饭、去神社或寺院进行新年第一次参拜等非常普遍。



《成人节》1月份的第二个星期一，今年是1月14日：“这是为了让青年们意识到自己已成为大人，祝福鼓励他们今后相信用自己的力量生存的节日”。

每年多数的市町村都会招待新成人（*刚满20岁的人）参加本地举行的成人仪式。现在，同一学年的人（*指前一年4月2日到当年4月1日之间满20岁的人）会接到邀请。来参加仪式的女孩们多数是穿和服的，所以对刮风下雨很敏感。



《建国纪念日》2月11日（星期一）：“纪念建国，培养爱国心的节日”。当天，各地会举行集会或纪念仪式。

■传统的民间节日及习俗

◆元旦从1月1日至3日的三天被称为正月头三天，政府机关与公司等多数都放假休息，最近各百货商店超市等照常营业的地方比较多。

◆正月在门前装饰青松的期间称为“松之内”。过去门松要摆放到十五日，近年来到了七日就会撤去门松，以恢复原有的日常生活气氛，现在的习惯是放到七日。

◆新年的第7天还有吃“七草粥”的习惯。接连几天吃鱼肉与味道比较油腻的饭菜，使得肠胃疲劳的时候，用春天的7种青草（可说是日本的香草）煮成清淡的七草粥来吃是很有道理的。

◆11日是“开镜之日”（吃供神年糕的日子），这天要撤去过新年时供放在神像前的年糕（圆形的年糕重叠放在一起，最上面放橘子装饰），煮成小豆年糕或菜汤年糕吃，以祈祷全家幸福无病无灾。



◆新年的惯例活动之一是新年消防训练表演，称为“初阵式”。可看到由消防队员和架子工们进行表演的消防演习和登高梯表演。

◆“节分”原来是指一年中四次季节变换的意思，现在专指立春的前一天（2月3日前后）。这一天人们一边高喊“鬼出去福进来！”一边往家中撒炒黄豆来打鬼赶鬼的风俗。

